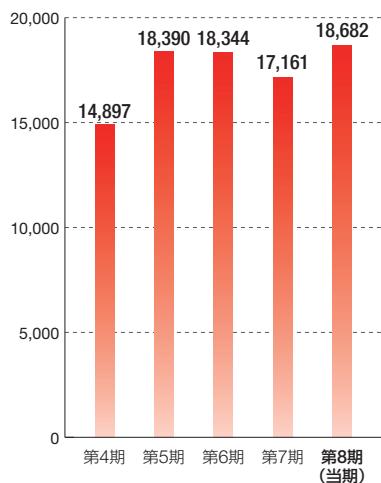


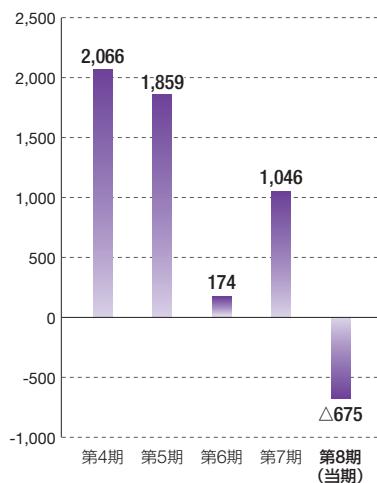
売上高

(単位:百万円)



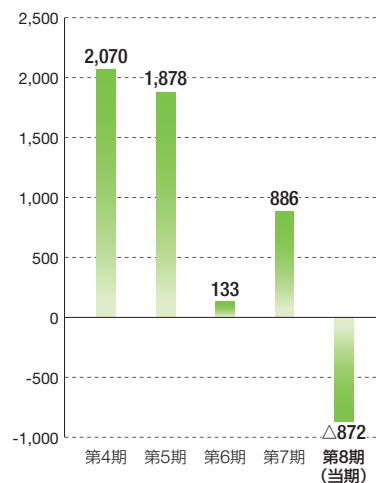
営業利益(△損失)

(単位:百万円)



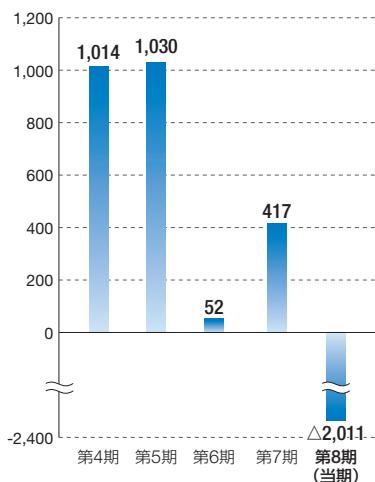
経常利益(△損失)

(単位:百万円)



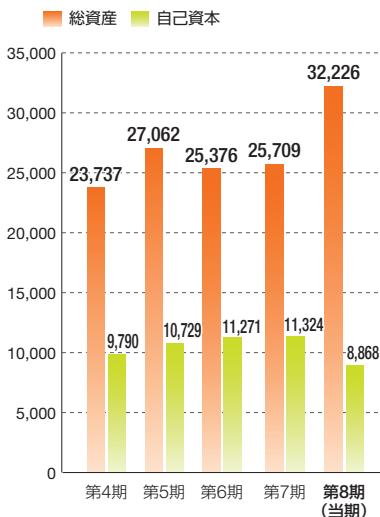
当期純利益(△損失)

(単位:百万円)



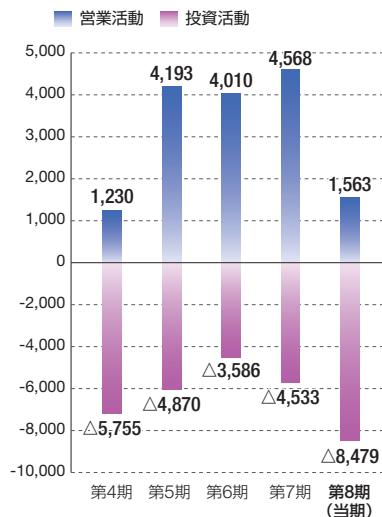
総資産・自己資本

(単位:百万円)



キャッシュ・フロー

(単位:百万円)



株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

また、平素は格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに、当社第8期(平成20年10月1日から平成21年9月30日まで)の業績をご報告させていただきますので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

平成21年12月

代表取締役社長 野上良忠



第8期の業績結果のご報告ならびに既に進捗しております第9期(平成21年10月1日から平成22年9月30日まで)の業績予想、当社グループの今後の経営課題等についてQ&A方式でご説明申し上げます。

Q1 第8期(平成21年9月期)の業績結果について

当社設立以来、はじめてとなる大幅な赤字決算となりました。

上半期は、昨年秋以降の世界経済の減速をうけ、液晶パネルの需要は世界的に大幅に低迷。パネルメーカー各社の稼働率低下によりフォトマスク需要も低迷いたしました。特に第8世代以下のフォトマスクは国内外における競争激化により、想定以上の価格引き下げ要求が発生するなど、当社グループの事業環境は急激に悪化いたしました。

このような状況の中、当社は非常事態宣言を発令し固定費、変動費などあらゆる角度からの構造的コスト削減を実施いたしました。また本年3月には次世代(第10世代以上)大型フォトマスク製造工場である滋賀工場が本格稼働し、第10世代用フォトマスクの生産をスタートさせました。

下半期に入り、中国政府による※「家電下郷」政策などによりパネルメーカー各社の稼働率が急激に回復するなか、当社では滋賀工場での第10世代用フォトマスクの需要は想定よりも増加したものの、第8世代以下のフォトマスクにおいては、価格下落に歯止めがかからず厳しい事業環境が継続いたしました。また、当連結会計期間においては、滋賀工場の償却負担(5,545百万円)の

影響に加え、ここ数年、中小型のフォトマスク需要が急激に減少してきていることを勘案し、中小型フォトマスクの生産設備の除却、減損等を実施、特別損失として10億95百万円を計上したことから、当連結会計年度における当社グループの業績は、売上高は過去最高となりましたものの、損益面におきましては当社設立以来の大幅な赤字となりました。

これを受け、当期の期末配当金につきましては、誠に遺憾ながら無配とさせていただき結果となりましたことを、株主の皆様には深くお詫び申し上げます。

※中国の農村部への家電製品購入のための助成金制度。液晶テレビが対象となっている。

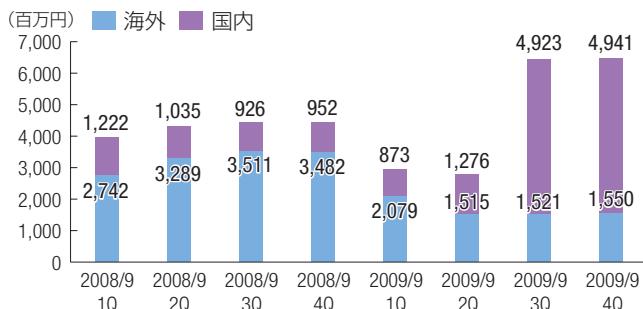
第8期連結決算概要

(単位:百万円)

	第7期 (平成20年9月期)	第8期 (平成21年9月期)	前連結会計年度比
売上高	17,161	18,682	1,521
営業損益	1,046	△675	△1,721
経常損益	886	△872	△1,758
当期純損益	417	△2,011	△2,428

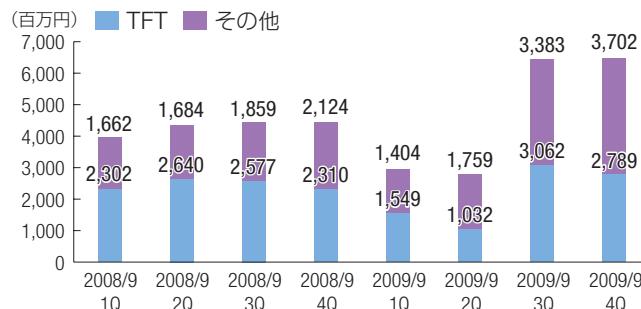
社長インタビュー

地域別フォトマスク売上高の推移



Point! 平成21年3月より滋賀工場が本格稼働したことにより、国内比率が大幅に上昇。

製品別フォトマスク売上高の推移



Point! TFT用フォトマスクの売上高は8,433百万円。その他のフォトマスクについては、滋賀工場稼働に伴うテストマスクおよびCF用フォトマスクが増加し、10,248百万円と大幅に増加いたしました。

Q2

業界初の次世代大型フォトマスク製造工場である滋賀工場が本格稼働したことについて

構想から計画、準備、稼働まで非常に短期間でしたが、過去最高の垂直立ち上げとなりました。

滋賀工場は本年3月より本格稼働し、第10世代用フォトマスクの出荷を開始いたしました。建屋の建設着工から生産装置の搬入、立ち上げまで非常に短い期間での工場立ち上げとなりましたが、そのプロセスは当社史上最高のものとなりました。

初出荷以降も非常に高い歩留まりで、量産期に入った現在においても順調な出荷が続いています。

滋賀工場で生産する第10世代以上の大型フォトマスクは、世界で唯一当社のみが生産できる超大型サイズです。液晶パネルは今後も大型化、高精細化、高効率化ニーズが高まることが予想されます。このような顧客ニーズにいち早く対応し、国内ならびに海外のパネルメーカー各社に安定供給を果たすことが、リーディングカンパニーである当社の使命であると考えています。

Q3

収益性改善のためのコスト削減効果は？

あらゆる角度からのコスト削減を実施、下半期にはその効果が表れました。

本年1月に非常事態宣言を発令し、固定費・変動費などあらゆる角度からの構造的なコスト削減を実施いたしました。まず役員報酬の減額、各種手当の一部減額を実施、5月にはその減額幅を拡大しました。また、設備投資については滋賀工場以外は原則凍

結、研究開発費についても大幅圧縮、京都工場の生産ラインの減損および除却なども実施いたしました。

この結果、損益分岐点も大幅に改善し、下半期の業績予想の修正は、このコスト削減効果が大きく貢献したと考えています。

Q4 第9期(平成22年9月期)の業績をどのように予想していますか?

収益確保(黒字転化)と株主の皆様への復配を必達目標に。

海外パネルメーカーの第8世代ラインの新規立ち上げおよび増設など、総じて大型フォトマスクの需要は増加するものと想定しています。

しかしながら、液晶テレビなどの最終製品の価格は引き続き下落することが予想されることから、フォトマスクについても同様に単価下落することを想定しております。

当社グループといたしましては、この厳しい事業環境に対応するため、コスト削減の取り組みを継続していくことに加え、顧客ニーズの先取りによる技術提案、営業・技術・生産・マネジメントが一体となったスピード対応を強化し、他社製品との差別化を図ってまいりたいと考えています。

第9期の業績予想につきましては、滋賀工場の本格稼働により、連結売上高は前期に比べ30.6%増の244億円、利益面につきましては連結営業利益3億50百万円を見込んでおり、株主の皆様への配当につきましては800円を予定しております。

第9期連結業績予想

(単位:百万円)

	第8期 (平成21年9月期)	第9期(予想) (平成22年9月期)
売上高	18,682	24,400
営業損益	△675	350
経常損益	△872	150
当期純損益	△2,011	150
1株当たり配当金	—	800円

Q5 フォトマスク事業を取り巻く液晶パネル産業の状況はいかがですか?

不透明感はあるものの特に中国での設備投資が活況。

世界同時不況以降ほぼ凍結されていた液晶パネルメーカーの設備投資ですが、ウォン安を背景に韓国主要液晶パネルメーカー2社が売上・利益共回復したため、最近第8世代製造ラインの増設計画(平成22年稼働予定)を発表いたしました。また、中国における設備投資も積極的になっており、シャープ株式会社が、第6世代液晶製造設備を中国南京市のCECバンドに売却(平成23年稼働予定)、第8世代での合併事業についても協議を開始するということを発表、韓国・台湾の主要パネルメーカー数社も中国国内での第7世代以上の液晶製造ラインの投資計画(平成23年以降随時稼働予定)を続々と発表いたしました。設備投資は経済状況、パネルの需給バランスにより計画が大きく左右される可能性はありますが、現時点においては、非常に活況を呈して

おります。なお、この新しい投資計画におけるフォトマスク需要の増加は来期以降と見込んでおります。



Q6 当社グループの今後の経営課題と事業展開について**リーディングカンパニーとしての進化と新事業開発。**

リーディングカンパニーとしての地位をより確実なものとするため、「知恵と情熱による未来価値の創造に向かって」のスローガンのもと、全社一丸となって以下の3つの課題に取り組んでまいります。

① 次世代大型フォトマスク事業の早期確立

シャープ株式会社の第10世代液晶パネル工場(大阪府堺市)が平成21年10月に量産を開始するなど、液晶パネルメーカーによる大型パネルの需要拡大に対応するため、本年3月に本格稼働した次世代大型フォトマスク製造工場である滋賀工場の先行優位性を最大限に活用し、同業他社に勝る技術力・収益性を確保し、次世代大型フォトマスク事業の早期確立を図ってまいります。

② 既存の大型総合フォトマスク事業の収益性改善

既存の大型総合フォトマスク事業(第8世代以下のフォトマスク)においては、今後大きく成長すると予想される中国の液晶パネル市場を含めて、液晶パネルメーカーの設備投資の状況や生産動向をいち早く察知し、スピーディーに対応していくために

マーケティングを強化し、また、フォトマスク単価の引き下げ要請や同業他社との競争に勝ち抜くため、技術面での差別化、生産性の向上、固定費削減、および材料調達コストの低減により、収益性改善を強力に推進してまいります。

③ 新事業の早期事業化

大型総合フォトマスク事業は、今後も液晶テレビを中心に液晶パネルの大型化による需要拡大を見込んでおりますが、徐々に成熟期に向かい、その成長率も鈍化していくものと考えております。今後も当社グループが継続的成長を続けていくためには、より早いタイミングでの新たな収益の柱となる事業の構築が必要であります。新たな事業の開発に関しては、社内における研究開発や外部技術の導入など幅広い視野で検討を行い、経営資源の効率的投入を行うことで早期事業化を目指してまいります。

最後に、滋賀工場建設という大きな設備投資を行った当社グループは、売上高の増加は見込めるものの、利益面においては工場建設に伴う償却負担が大きいこと、加えて同業他社との競争激化などから厳しい事業環境が継続することが予想されます。

引き続き、収益性改善に努めるとともに液晶ガラス基板用フォトマスク業界のリーディングカンパニーとして更に発展、成長していくことで株主の皆様のご期待にお応えしてまいりたいと考えております。引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

Q. 滋賀工場で何を作っているの？

滋賀工場では、現在、第10世代といわれる世界最大サイズの液晶パネル用フォトマスクを製造しています。液晶パネルは、薄型テレビの普及とともに、生産効率向上のため大型化が進んでいます。その生産工程で必要となるフォトマスクについても更なる大型化が求められています。この世界最大サイズの液晶パネル用のフォトマスクを製造できるのは、世界で唯一当社の滋賀工場だけです。



▲第10世代用フォトマスク



Q. 今までの第8世代以下のフォトマスクと比べて作るのは難しいの？

非常に高度な技術が必要となります。

液晶パネルメーカーが大きいサイズのフォトマスクを使って製造すれば、大画面の液晶パネルを効率よく作ることができます。しかしながら、フォトマスクはサイズが大きくなればなるほど作るのが難しく、高度な技術が必要になります。

フォトマスクを作るにあたっては、①フォトマスクに描かれるパターンの精度(精密さ)②欠陥やゴミ③ムラが品質を決める三大要素になります。第10世代用フォトマスクでも、求められる精度や面積当たりのゴミ・ムラの問題は従来と同じあるいはそれ以上のレベルが要求されます。難しさをたとえるならば、フォトマスクをサッカーグラウンドの大きさに見立てたとして、そのサッカーグラウンドの中に、直径0.3mmのゴミが1つでも落ちていたらNGというくらいの緻密さが必要とされます。

滋賀工場は、今までの経験や失敗をもとに、従来の全プロセスについて見直しを行い、徹底的に研究・開発を重ねた最高品質の超大型フォトマスク製造工場なのです。

第10世代って？

今年10月に稼働したシャープ株式会社の第10世代液晶パネル工場で生産されている世界最大の液晶ガラス基板サイズ(2.8x3.1m)を第10世代といえます。フォトマスクも従来の第8世代の約1.5倍の大きさになります。(正式なサイズは非公開)

ガラス基板サイズ



Q. 今後の展望は？

最先端の滋賀工場では、今後、第10世代以上の大型化が進んだときでも、対応できる生産能力を持っています。国内ならびに韓国・台湾等の液晶パネルメーカーが、次世代大型パネルに投資される際にも、十分な生産能力と安定供給ができる体制を整え、業界のリーディングカンパニーとして更なる発展を目指します。

連結財務諸表の概要

▶ 連結貸借対照表

科目	第8期 (平成21年9月30日)	第7期 (平成20年9月30日)
【資産の部】		
流動資産	① 13,355	9,074
固定資産	② 18,871	16,635
有形固定資産	18,337	15,985
無形固定資産	301	316
投資その他の資産	231	333
資産合計	32,226	25,709

Point 1 流動資産

流動資産の増加は、主に滋賀工場稼働開始に伴う売掛権の増加によるものです。

Point 2 固定資産

固定資産の増加は、主に滋賀工場における建屋および機械装置の取得によるものです。

Point 3 負債

負債の増加は、主に滋賀工場設備投資に伴う長期借入金の増加によるものです。

(単位:百万円)

科目	第8期 (平成21年9月30日)	第7期 (平成20年9月30日)
【負債の部】		
流動負債	11,897	7,390
固定負債	10,013	5,110
負債合計	③ 21,911	12,500
【純資産の部】		
株主資本	9,386	11,489
資本金	4,109	4,109
資本剰余金	4,335	4,335
利益剰余金	989	3,092
自己株式	△ 48	△ 48
評価・換算差額等	△ 518	△ 165
その他有価証券評価差額金	18	10
為替換算調整勘定	△ 536	△ 175
少数株主持分	1,446	1,885
純資産合計	10,315	13,209
負債及び純資産合計	32,226	25,709

Point 4 売上高

売上高の増加は、主に滋賀工場の第10世代用フォトマスクの売上増加によるものです。

Point 5 売上原価

売上原価の増加は、主に売上増加に伴う材料費の増加や滋賀工場の減価償却費の増加によるものです。

Point 6 特別損失

特別損失の増加は、主に京都工場(中小型フォトマスク製造ラインの一部)における減損損失や固定資産除却損の計上によるものです。

▶ 連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	第8期 (平成20年10月1日から 平成21年9月30日まで)		第7期 (平成19年10月1日から 平成20年9月30日まで)	
売上高	④	18,682		17,161
売上原価	⑤	17,245		13,808
売上総利益		1,437		3,352
販売費及び一般管理費		2,112		2,306
営業利益又は営業損失(△)		△ 675		1,046
営業外収益		58		130
営業外費用		255		290
経常利益又は経常損失(△)		△ 872		886
特別利益		46		41
特別損失	⑥	1,095		178
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△)		△ 1,921		749
法人税、住民税及び事業税		36		424
法人税等調整額		237		△ 190
少数株主利益又は少数株主損失(△)		△ 184		98
当期純利益又は当期純損失(△)		△ 2,011		417

▶ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	第8期 (平成20年10月1日から 平成21年9月30日まで)		第7期 (平成19年10月1日から 平成20年9月30日まで)	
営業活動によるキャッシュ・フロー		1,563		4,568
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 8,479		△ 4,533
財務活動によるキャッシュ・フロー		7,272		603
現金及び現金同等物に係る換算差額		△ 111		△ 69
現金及び現金同等物の増減額		245		568
現金及び現金同等物の期首残高		2,167		1,599
現金及び現金同等物の期末残高		2,413		2,167

▶ 連結株主資本等変動計算書

(平成20年10月1日から
平成21年9月30日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等			少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成20年9月30日残高	4,109	4,335	3,092	△ 48	11,489	10	△ 175	△ 165	1,885	13,209
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△ 90		△ 90					△ 90
当期純損失			△ 2,011		△ 2,011					△ 2,011
自己株式の取得				△ 0	△ 0					△ 0
自己株式の処分			△ 0	0	0					0
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						8	△ 360	△ 352	△ 438	△ 791
連結会計年度中の変動額合計			△ 2,102	△ 0	△ 2,102	8	△ 360	△ 352	△ 438	△ 2,894
平成21年9月30日残高	4,109	4,335	989	△ 48	9,386	18	△ 536	△ 518	1,446	10,315

▶ 個別貸借対照表

(単位:百万円)

科目	第8期 (平成21年9月30日)	第7期 (平成20年9月30日)
【資産の部】		
流動資産	11,361	6,924
固定資産	17,901	14,100
有形固定資産	15,342	11,437
無形固定資産	296	315
投資その他の資産	2,262	2,347
資産合計	29,262	21,025
【負債の部】		
流動負債	11,067	6,488
固定負債	9,346	3,840
負債合計	20,414	10,329
【純資産の部】		
株主資本	8,829	10,686
資本金	4,109	4,109
資本剰余金	4,335	4,335
利益剰余金	432	2,289
自己株式	△ 48	△ 48
評価・換算差額等	18	10
その他有価証券評価差額金	18	10
純資産合計	8,848	10,696
負債及び純資産合計	29,262	21,025

▶ 個別損益計算書

(単位:百万円)

科目	第8期 (平成20年10月1日から 平成21年9月30日まで)	第7期 (平成19年10月1日から 平成20年9月30日まで)
売上高	17,254	14,063
売上原価	15,799	11,362
売上総利益	1,455	2,700
販売費及び一般管理費	1,906	1,991
営業利益又は営業損失(△)	△ 451	708
営業外収益	157	202
営業外費用	200	175
経常利益又は経常損失(△)	△ 493	735
特別利益	46	41
特別損失	1,067	167
税引前当期純利益又は 税引前当期純損失(△)	△ 1,514	609
法人税、住民税及び事業税	36	407
法人税等調整額	213	△ 125
当期純利益又は当期純損失(△)	△ 1,765	327

■会社概要

社名	株式会社エスケーエレクトロニクス SK-Electronics CO.,LTD.
設立	平成13年10月1日
資本金	4,109,722千円
本社	〒602-0955 京都市上京区東堀川通り 一条上ル豊富田町436番地の2 TEL:(075)441-2333(代) FAX:(075)441-4291
従業員数	179名
事業内容	大型総合フォトマスク事業

■事業所

東京営業所	(東京都港区)
京都工場	(京都府久世郡)
滋賀工場	(滋賀県甲賀市)

■海外子会社

頂正科技股份有限公司(Finex CO., LTD.) (台湾)	大型フォトマスクの製造・販売
SKE KOREA CO., LTD. (韓国)	大型フォトマスクの販売

■取締役および監査役

取締役会長	石田 敬輔	取締役	藤原 英博
代表取締役社長	野上 良忠	監査役(常勤)	辻 庸介
専務取締役	石田 昌徳	監査役	榮川 和広
常務取締役	古田 一臣	監査役	堀 修史
取締役	堀内 秀昭		

■株式の状況

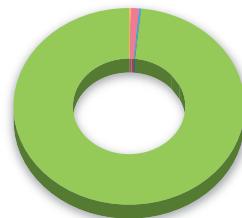
発行可能株式総数	327,600株
発行済株式の総数	113,684株
株主数	6,914名

■大株主

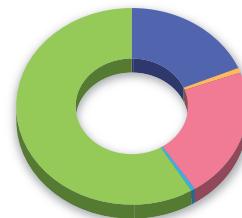
石田敬輔	9,228株(8.11%)
株式会社写真化学	7,301株(6.42%)
株式会社ニコン	5,684株(4.99%)
株式会社京都銀行	3,562株(3.13%)
株式会社みずほ銀行	3,262株(2.86%)
大日本スクリーン製造株式会社	3,150株(2.77%)
株式会社三菱東京UFJ銀行	2,512株(2.20%)
株式会社りそな銀行	2,512株(2.20%)
日本生命保険相互会社	2,512株(2.20%)
富士火災海上保険株式会社	2,437株(2.14%)

■所有者別株式分布

〈株主数別〉



〈所有株式数別〉



■株主メモ

事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	毎年12月
配当金受領株主確定日	毎年9月30日 (なお、中間配当を実施するときは毎年3月31日といたします。)
基準日	定時株主総会については毎年9月30日 (その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。)
公告の方法	電子公告の方法により行います。 ただし、やむを得ない事由により電子公告することができない場合は、 日本経済新聞に掲載いたします。 (公告掲載URL http://www.sk-el.co.jp/top.html)
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎0120-176-417
(ホームページURL)	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html
上場証券取引所	ジャスダック証券取引所

【株式に関する住所変更等のご照会および届出について】

株式に関するお手続き(届出住所・姓名などの変更、配当金の振込方法、振込先の変更など)のご照会および届出につきましては、証券会社での口座開設の有無に応じて、以下のいずれかの窓口にご連絡ください。

【証券会社で口座を開設されている株主様】…………… 当該証券会社にご連絡ください。

【証券会社で口座を開設されていない株主様】……… 住友信託銀行にご連絡ください。

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様のご所有株式は、住友信託銀行に開設された口座(特別口座)に記録されております。

特別口座の詳細につきましては、上記の住友信託銀行の電話照会先にお問い合わせください。